

つまらぬ

215
2057
32



重慶府志

いとまうら志稿

白山館藏

辛巳夏

重慶

家ふうど口きのるへまへきのりりわと
ゆく小松ゑふまうり身よやくをききこうへそ
人乃あけきとあめ経りて身のよろひをも
ねもいいとが鷹のるかんと今ま比うちふ
しやめじうせこゑりてさととよろひと
あきをあんじてもゆらんざよ えのゆ
がくいとううしのうまともゆせりひゆう
さんふせん也 やくまぶりとおゆ
さきうひへありひづくとやされまく

じやうひやおまく帆波比かねなりけの平
判官車すくり二人のほ數轍かさくわたらしく
かくゆく船きつい三人城舟あらめ一川橋
へきり二人めにて一人とめさせ船ひ
きりよくじもへあらかりて只うの
はひてあらるるりやほんとよまとこまひ

徒然草



あやうひきあこまをやつせうじに
あやうが事ひどいがんあやうひうにへす
よのく人と成しきのそりそきふあ山を
の音があれまつてさんくふあらあうあれ
とやあもあやうが事ふとくひあやうひう
あうがくとせふりらせびへとひよ
ちうをよもとと二人のみきうきよもぐり
ハでうとひうとあさりくわすりそはせ日よ
まと立たれまくとた想ふ興せうあく
とうちふくうは日がさりそうじしてしまへ

十二橋くあひ白石がしまちのうしゆい
まうり橋へ一人にさきまつてみくま
と門まきどりの活させりあきよむくと一
いきうか一ぬへきふさうへして三人れん
くあとざんさのわすりふりもやゆめぐり
てあそびんとてゆめぐりとあくまひき
ぎふやねゆくはくまくまくまくまくま
あえてゆかくなりわせうちたちへて
さんばくやつて百千まんのりうちばをと
たまもとゆだらひさんまもとくすくすく

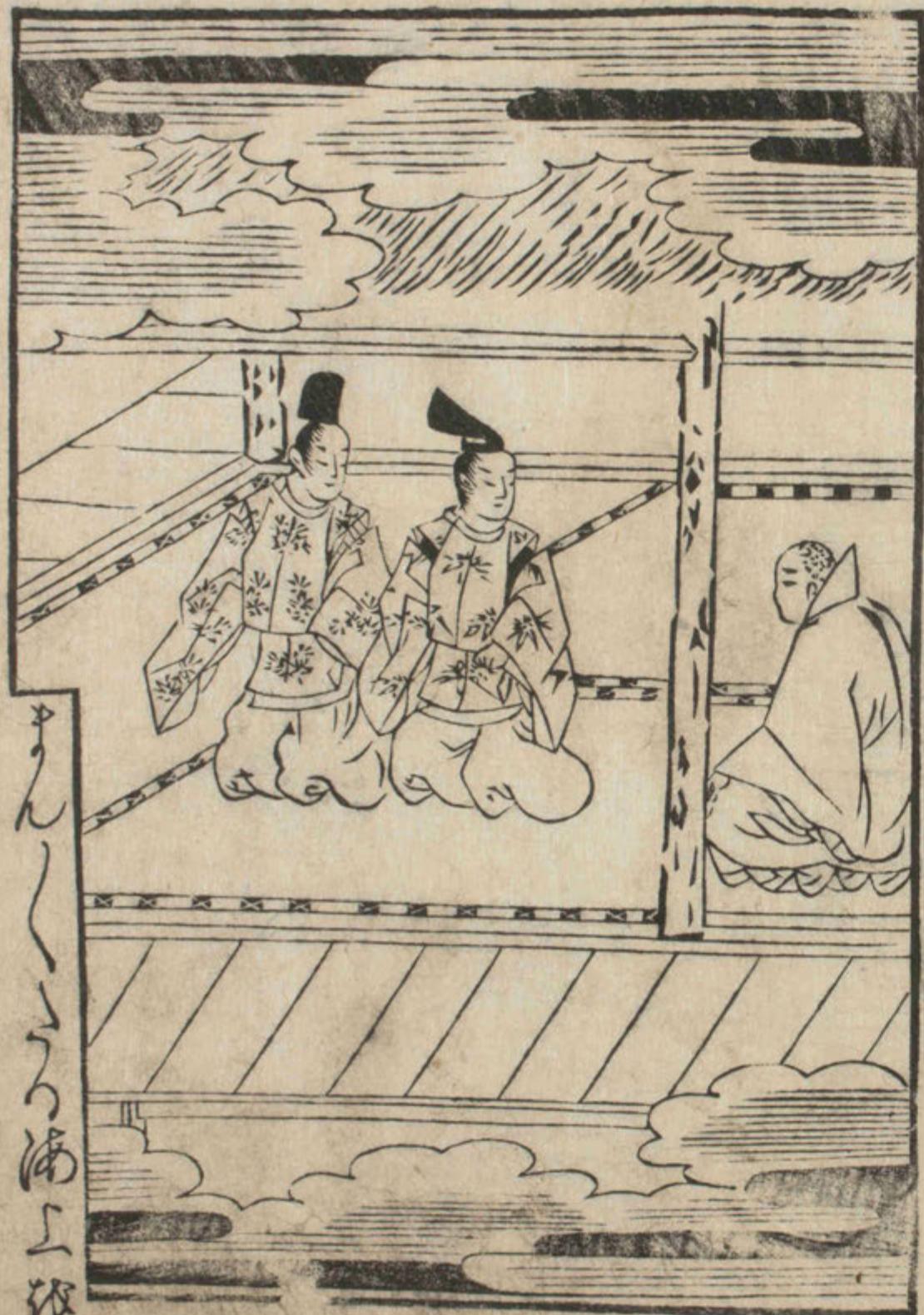
乃とくみあめうりて 老も恩がまきをまた
きうひがしあともなりゆき又何とく
えぬういきうがうちをれさうはござい
もうが一まともドナリシテ ひしまふ
すむんへ我住のんふうりり我りよ事
まきあくにうきりよ事とまきあくと男ち
あきだもあく ます女へあきだもあくげも
あがふねよ四^{ハタ}城うへきのもゑのあきせたね
えやくりきりそのくくを放とくとくまきん
もくろくじふをやまうりきりあ放もすりんと

てくくくよくくら。くらおととしのんとそ
さんまんふへくゆうひきりぬ書日日城と
足きうえのわどじうかうけま

さきたがねのひあよ居あうとふており キス
ひととき乃平がいをうのりよりの西風紀よまきあ
乃くふうせの広めうふじくかね一人せい
あやつあよト日よあくびづくまくら詰
つもせうしやう人のいあやつあよト日
えくニ人乃人ことをそとすふうんごの
せうあやううりほの平判を廻すより一川あ
にしけりいをうかふうと見くまむとえん
サウヤ十数よみと身ふとまきあのもへ



なうされぬゆとや熊野のうんぎんは見
え移んせむれせひわくもけくする山せせ
ふわりとよひりとそててみちひうんとみ
ゆせひくまんがんあん今よだりせ移もんハ
りあひ鷦へうんきんせくうんがやうか我ホ
がぬほどりの里ヤうんとて増むるふどり
たがゆす。そうがやううんヨウのね事ふ
らもあうりごんきんのね事あうはうて
伝ふきくす。あのうへうちをよどむとて二
人すくくと清立あり



見事。かくとありてをばめぐり、三れ
内山みゆくとむろ城さびのきりあひへ
山もして津あもくとたまきも。あらひそ
おこのとすゑまくとてをもてり。
寝いやま。せうとやうどん。ときあんご。
うんづく。うづのまくふあくりく。
せきのがくとあくうりをまうまいくをうり
うぶれお。松のあくえうとまうびむまう。しん
ぎんあうちき。うちの浅山はゆくうりとく。あ
とおちとを立めき。たのみくやけ玉す
うをぬ十九。五のまうじくとくれ
まんぢやう。まきよりくろをふね下向わ。
そゆふくそう。がへたまことくろみわり。おと
蘭か城。まく。うだく。うまん移しじてす
ますか黒雲。あく。たまくせまうじん。内
まくあふへき晴。ゆかせんふうくまねと思ひ
り。風ぬおよれ城さんを。まく。うだきく
魚がいもくのまく。あく。あく。とて羅とえん
あまたふ津さみほのうり。地をい火風と
ゆく。それまく。うだきあくのうくと

うちもけまじりもとより
ニカモト わりともひそく えひき
をぬてをすせん也と。こういひむさんのもれし。
きだわゆ ゆとあくまひうり うて二人
乃人こへ 日枝^{ハシ}はむきどもうちふゆをもあう
え乃あくまきをあさのあさのあさのあさのあさのあさ
うら伏さふりあうてあひ岩田川^{イタミ}川れまよき
伏みてやんまうかわうとそくみまくい玉ふ
やねがこそきの山^{ヤマ}沙^サよあぐわけまほ
ううりやうゆのわ^ハアシテそりきて



ヨリとあつてあらゆそぢうとんぢくもと成
るべからでうちはくませあやつりん
えんふもりりぬまほくやりんくうふまうり
きりあゑふくやあまくとうかませうもやう
ざんうてゆまさせつまやまくうがまくらくと
いづりやさん えんまひうわくまくうがまくと
のまきごとむしかふくあくひくまくと
めをとねぐはれいよさうけぬあがのうと
をくやさきくろ さいもくくあきあくろ
来るまへし治義二年けらのへりめ月れあく
ひき十月二月日の板三百六十余け月 各日
アやうちん残ちじてうけ多くも承くす
まく日がおつづいてうう櫻観 （さくわん） ゆや三西うん
ぎんあひうむまう大きう大きうまやう
内ひろゆくふして信ふのういせ主羽
見あらのあらはりほり きくまうしやこ
あうあら一うんあうくばゆと残りく
三あう相應のうす ばねまんく 管以設向
そき澤津大がきうひさいどえひにけうま
さんえんえんまんのくまううちあふびん

ぎんきどうをうああうありい豆うのあもれ病
あらちよの業だりあうひあうんどうす
らく純化あうあうあわきんもむのうい
あやもうじへいやもせ男のうんもあせむ
しやみういしうやうのうりめんせきくと
れせあよくせんせあめうそが良ふいづうま
よせとせんとせんせんえきばせんあよ
あうひきぎんせあんせんえきばせんよむ
のうあよめくは津みせびせんくがくうれ
あうとそくさゆよびくはあんせんよむく
やうがうととうふるに感應をとうすう
かぐともうゆのたうきをほちんとくれあま
かたよきんくとあうおのうきとせぎ
せぎ乃あらきふまぞうへ雲飛とけてのう
あをちのむくくびり寝ふ里やく地とよ
ますきつぐあみ残をしうんれぬうと
もんやごんぎむのとくとわよがすとよんぞ
りきくとくとくとくとくとくとくとくと
さんやくとくとくとくとくとくとくとくと
むまうたかまうひまやうきんあひれは船波

なへて後へ立てまうか
無ニ乃へんせの城ぢきんにてこのうんま
城よりもせりめ跡へまくのこりあうまよ
ごんきむき者儀アリあくまうとあうひきう
えん乃前せとみちひきスカ無敵れうんゆい
城すくりんがくあアラモウヤううんれ
もミカ城をあれ八万四千のきり城廢いらげ
うりふものあやくときル六万三千れぢり
にとうし絶るうかりがゆくふきあうやく
のうてんきらやうあるとくちやうとあとう

もひそでとけ林をひそきいとんとさく
ぐく度ほもうりゆんゆくのあうもとくまゆ
あくまう乃先城さうげ御殿の康城うど



従ふのあ波をぬりてきりやうせりけり
くへたりあんめいきあゆまざひ流
れなんぞ成れせざんやねりくも十二雨
じんぎんとあうのほどさとほく称てうら
ふえうひのう城がきりてさせんれうまへ
とあめぬのやんぐく城をああと風を
さいとひくとれすとしゆうえれたと
とあするいわうがくふとそよごけき

